

高校で地元就職した若者達の離職率は41.9%と平均よりも高い島根県。

離職の原因は、若者だけにあるのでしょうか？

また、最近では、「人手不足倒産」という言葉を耳にする機会が増え、

人手不足の状況は、今後さらに深刻化すると予想されています。

本当に、いまのままでよいのでしょうか？

本気で若者から支持される会社にしませんか？

社員がやりがいをもって働ける、

そんな魅力的な会社を本気で目指しませんか？

ぜひ、一歩踏み出しましょう！



社長様、
あなたにとって
大切なものは
何ですか？

会社にとって一番大切なもの何でしょうか？

社員
(含む家族)

お客様

取引先

株主

地域の
住民

人を大切にする経営

ただ聴くだけのセミナーではなく、
確実に会社の状態がよくなっていくようなプログラム。

実践講座
全6回

同じような感覚になっていただく社長を増やしたい。

「人本経営」の素晴らしさをぜひ体感してほしい。

【人本経営（じんぼんけいえい）とは？】

- ・ 経営理念が「社員の幸せを追求すること」に直結している。
- ・ 経営理念が経営陣、社員全体に浸透している。
- ・ 働きやすく、風通しの良い職場環境であり、社員が自発的行動している。
- ・ 様々な働き方に柔軟に対応出来る体制を整えており、育児をしている女性も活躍している。
- ・ 女性・障がい者を積極的に採用し、活躍している。
- ・ 急激な成長は追わず、少しずつでも着実な成長を目指している。

■これまで講座に参加された方のご感想■

「人本経営の具体的な取り組みを、求人媒体に打ち出したら、採用に困らなくなりました。
また、とても人柄の良い人が入ってくれるようになりました。」

「はじめは人を大切にする経営と言えば、キレイゴトに聞こえました。しかし、セミナーを
通して成功事例をたくさん学ぶことにより、これからの社会に求められる考え方だと思いました」

「社員たちがこんなに喜んでくれるとは思わなかったです。」



社員が誇りに思い・若者に支持される、そんな会社を目指しませんか？

「人を大切に する経営」

全6回

実践講座

ベテランが定年で退職し、若手が定着しない・・・人手不足状況は今後さらに深刻化!?

ご承知のとおり、全国的に、人手不足で苦しんでいる中小企業は少なくありません。

2月1日には、NHKの朝のニュースで「**人手不足倒産が急増中である**」と特集で取り上げられていました。

ニュースで紹介されたのは、人手不足の影響で去年8月に破産を申請した運送会社でした。異変が起きたのはおよそ3年前。退職したドライバーを補充しようとしても応募がぱったりなくなったということです。受注は増えていたものの、ピーク時に16人いた社員は破産直前には8人に半減し、トラックを売却するなど身の丈を縮めてしのごうとしましたが、売り上げが減り続ける中で経営が行き詰まり、創業40年を超える長い歴史にピリオドが打たれました。運送会社の元社長は「**人がいないので仕事を受けたくても受けられない**。予定していた仕事をこなすこともできず、売り上げが落ちていった。人がいれば仕事をずっと続けていたし、いろいろと考えることもできたと思う。**本当に悔しいだけです。**」と語っていました。

またNHKは、**15歳から64歳までの生産年齢人口**について、

「1995年をピークに減少が続き、直近の2015年では7700万人余りと、**すでに1000万人ほど減っています**。

この動きは今後加速し、**2050年にはさらに、2500万人近く落ち込む**と予想されています」と報じています…

申し遅れました。株式会社ビジネスプランの安野広明（あんのひろあき）と申します。

益田市で、十数名の社員と共に、社歴35年以上の会計事務所並びにコンサル会社を経営しています。

ところで、ここ数年、中小企業における「人の問題」がより一層深刻化していると感じませんか？

具体的には、「求人を出しても応募がない」、「人がすぐに辞める」、「若い人が育たない」、

「ベテラン社員が定年退職でいなくなる」など・・・

上記の運送会社のような「人手不足倒産」は、生産年齢人口が減少していくこれからの時代、

決して他人事ではありません。現に、「人がいない（育たない）ために、仕事を受けたくても受けられない」という状況は、あちらこちらで耳にします。

もし仮に、貴社において「人の問題」が顕在化しつつある、もしくは将来に不安があるならば、いまのうちから対策を講じるべきではないでしょうか？



離職率が下がり、高収益体質になれるとしたら、その方法を知りたくありませんか？

ここで世の中を見渡すと、**離職率が低く、若手やベテラン社員がやりがいを感じながら働き、結果として高収益体質になっている**・・・そんな中小企業が見受けられます。

例えば、寒天を素材とした商品を生産・販売している長野県のI社は、決してハイテクとか、時代の花形商品といったものを扱っている訳ではありません。しかしながら、同社の社会からの評価は抜群で、その証である業績は、48年連続増収・増益。連続が途絶えた後も、売上高営業利益率は常に10%前後と、驚異的な超優良企業です。「社員を幸せにする」という理念経営を愚直に実践しているため、全社員が居心地がよいのは当然で、転職的離職率も実質ゼロになっています。

ちなみにI社は、大企業でも、成長産業でも、ロケーションに恵まれている訳でもなく、その意味において、石見地方の中小企業と何ら変わりないと言えます。

また、この他にも、

- ▼社風が魅力的で、募集をかければ新卒や中途の応募が殺到する会社
- ▼自律的・自発的な社員が育つ会社
- ▼社員のみならず、ご家族からも支持されている会社
- ▼地域社会から必要とされている会社
- ▼優秀な社員が付加価値の高いサービスを提供することで、価格競争とは一線を画している会社

「人の問題」による悩みとは無関係に、お取引先からも社員からも地域からも支持され、心地よく経営し、なおかつ業績の良い会社は、世の中にたくさんあるのです。

・・・いかがでしょうか？

貴社も、そのような会社を目指したくはありませんか？



その答えは、「人を大切にする経営」です!

実は、これらの中小企業には、共通点がございます。それは、「人を大切にする経営」に取り組みられていることです。では、「人を大切にする経営」とは、どのようなものか? ひと言でいえば、社員やそのご家族、お客様、仕入先、外注先、地域住民など、「関係するすべての人々の幸せの追求を目的とした経営」です。

この考え方の中では、「人」を、いわゆる「ヒト・モノ・カネ」といった経営資源の1つとして位置付けるのではなく、「人」そのものが目的であり、モノもカネもその他の資源も、「人」の幸せのための手段に過ぎないと位置付けられます。

このように書くと、「そんなのは綺麗事だ」とか、「業績を高めなければ幸せにできないのだから、業績こそが目的だ」と感じるかもしれません。しかし、これは**机上の空論ではなく、事実なのです**。そのことに気づき、経営の目的を、「業績」から「人の幸せ」へと方向転換した企業は、着実に成果を上げていらっしゃいます。

また、この「人を大切にする経営」の考え方は、**平成世代の若者たちとの親和性が高い**という特徴もあります。時代の価値観は、20年近くかけて大きく変化してきたのです。

そういう意味では、平成世代が30歳前後となり、社内の次世代リーダーとして活躍するであろうこれからの時期に、「人を大切にする経営」へと舵を切り、軌道に乗せていくことは、中小企業にとって必要不可欠と言えます。

であるとすれば、われわれは、既に「人を大切にする経営」を実践し、成果を上げている企業から真摯に学び、自社の経営に生かすべきではないでしょうか?

そこで、この度、「人を大切にする経営」実践講座と題し、全6回の講座を開催することにしました。

講師は、「日本でいちばん大切にしたい会社」の著者である法政大学大学院の坂本光司教授に師事され、人を大切にする会社づくりのトータルプロフェッショナルとして講演や研修の実績を多数お持ちの、小林秀司(こばやしひでし)先生と、私、安野が務めさせていただきます。

単なる理論の勉強ではなく、あくまでご参加いただいた企業が、**現場で実践していただくことに重きを置いた講座**となります。カリキュラムについては、以下のとおりです。

◆「人を大切にする経営」実践講座 カリキュラム◆

日程	テーマ	主な内容
第1講 5月8日(火)	・人本経営ベーシック	・ 日本的経営と人本経営の違いとは? ・ これがクリアできれば人本経営と言える34の基準とは? 他
第2講 6月12日(火)	・ 理念経営と理念採用	・ 理念を見つめ直す際、留意すべき点は? ・ 魅力的な会社に学ぶ理念採用の極意とは? 他
第3講 7月10日(火) 7月11日(水)	・ 人本経営の現場に触れる「県内企業視察ツアー」 ※株式会社さんびる(予定)他3社	・ 百聞は一見に如かず。650回を超える企業視察をしてきた小林講師のアテンドで4社を訪れ、先進的な取組みに触れると共に、個性豊かな経営者と直接対話します。
第4講 8月7日(火)	・ 人本経営のマーケティング ・ 人本経営を浸透させるための経営計画書	・ いい会社は、脱価格競争をいかに実現しているのか? ・ 人本経営と業績を両立させるための経営計画書と、その活用方法とは? 他
第5講 9月11日(火)	・ 社風をよくするマネジメント	・ 関係の質を高め続けていくために実践していくことは? ・ 社員第一主義で全員主役を実現させる人本経営マネジメントの鍵とは? 他



第6講

10月9日(火)

・人づくりの進め方
・総括

・ほめる技術を高める方法は?
・人間力教育の方向性とは?
・参加企業による取組みの発表 他

* 各回、13時30分～16時30分(3時間)での開催となります。ただし第3講については、2日ともほぼ終日開催となります(バスでの移動中にも講義があります)。

* 講座の進め方

インプットタイム(レクチャー等)とアウトプットタイム(考える時間・シェアする時間・振り返りの時間等)を設けます。この講座の時間内に、聴くことだけでなく、自社での具体的な応用方法についても思考して方針を立て、明日から実践できるように各テーマを繰り返していきます。また、**他の参加者の考え方も大いに参考になるはず**です。

◆講師プロフィール◆



小林 秀司 (こばやし ひでし) *メイン講師

株式会社シェアードバリューコーポレーション 代表取締役
法政大学大学院中小企業研究所特任研究員。

内閣府委嘱「地域活性化伝道師」。

社風をよくする研修やコンサルティングを行い、
人を大切にする会社を世に増やす活動を実践している。

1960年生まれ。

社会保険労務士歴21年。

著書に『人本経営』、『元気な社員がいる会社のつくり方』他。



安野 広明 (あんの ひろあき) *主催者 兼 講師

株式会社ビジネスプラン 代表取締役、あんの会計所長

公認会計士・税理士、未来会計コンサルタント

島根県益田市出身。

2002年公認会計士2次試験に合格すると同時に、

朝日監査法人(現あずさ監査法人)へ入社。

その後、新日本アーンストアンドヤング税理士法人への転職を経て、

2010年に益田市に戻る。

石見の中小企業を元気にするべく、日々奮闘中。

先延ばしにすれば状況は悪化・・・行動を起こすなら、今しかありません!

私自身、会社を経営していて感じるのは、何かきっかけが無い限り、いつまで経っても一歩を踏み出せないということです。したがって、もしも現在、「人の問題」で悩んでいらっしゃる、例えば、「社内の雰囲気が悪く、人が定着しない → 人が育たない → 人による社内外のトラブルが多い → 社長が本業に集中できない → 業績が悪化する → さらに社内の雰囲気が悪くなる・・・」という負のスパイラルに陥っているとすれば、いつまでもそこから抜け切れず、状況が悪化することはあれど、改善は難しいかもしれません。そんなスパイラルがこれから先、3年、5年、10年と続いたとすれば・・・あまり想像したくありませんね(汗)。

そのように考えると、今回の講座は、貴社が**正しい方向へと舵を切り、一歩踏み出す絶好のチャンス**です。当講座を機に、方向が軌道修正され、社風が改善し、こらからを担う人財が育つようになれば、**将来に渡って大きな価値を生み出す**ことができるでしょう。

なお、次回開催は未定ですので、参加を悩まれている方は、ぜひ、この機会にご参加下さいませ。

会場でお会いできるのを楽しみにしております!

安野 広明 拝

株式会社ビジネスプラン / あんの会計
〒698-0041 島根県益田市高津一丁目1番1号
TEL0856-23-6116 ・ FAX0856-23-6674

この実践講座に参加して、共に、「魅力的な会社」を目指しましょう!